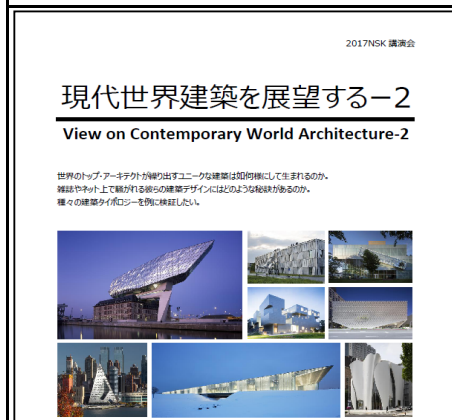


プログラム名	現代世界建築を展望するー2	認定CPD	2単位
開催日	2017年11月10日(金) 18:10~20:10		
開催場所	ウインクあいち 1101大会議室 (名古屋市中村区名駅4丁目4-38)		
講師	建築ジャーナリスト 淵上正幸氏		
担当理事	企画委員会 理事 西井信幸	その他	
参加者	NSK会員及びその所属者20名、一般51名 計71名 スポンサー企業11名、合計82名(定員100名) 二次会 22名(NSK関係12名 一般8名 スポンサー2名)		
備考	協賛(株)LIXIL 後援(公社)愛知建築士会、(公社)愛知県建築士事務所協会、(公社)日本建築家協会 東海支部愛知地域会		

早くも今まで8回目、8年目の淵上講演会である。この現代建築の講演も名古屋に定着してきた感がある。表題は『現代世界建築を展望するー2』とあるが、現代建築の講演をシリーズで行ってきたので正確には8というべきであろうか。いつもの柔らかい淵上正幸氏の語り口で会議室は魅了され、あっという間の2時間であった。内容は現代建築家10名の作家とその作品である。

まず1.デイラー・スコフィディオ + レンフロから始まり、2.ドメニク・ペロー、3.スティーブン・ホール、4.フォスター、5.重松象平(OMA)、6.ポルサンバルク、7.ピヤルケ・インゲルス、8.田根剛、9.MAD、10.ザハ・ハディドの10人の最先端の現代建築の作品が紹介された。特に2、3、4、6、10の各建築家は常連だが、個人的に言えば日本人である田根剛がその若さでコンペで勝ちとったエストニア国立博物館の飛行場をイメージした建築が印象深かった。又、ポルサンバルクのソウルに建つ布をイメージしたディオールのショップも現代建築の中では美しいという感じを受けた。そしてOMA出身のレムの弟子であるピヤルケ・インゲルスのニューヨークに建つ三角錐の超高層ハウジングも中庭を取り入れた三角錐のハウジングの形としては画期的な試みであった。最後にザハのベルギーのアントワープのハンザ同盟時代の古い建物の上に改修した高さ111Mの新しいオフィスとしての現代建築を増築する形は圧巻であった。ザハが昨年亡くなった直後、小生も淵上さんと共に飛び込みで事務所を訪問したが、今なお40数プロジェクトが世界中で進行中とのことであった。その弟子ともいえるMADの中国での話題も見過ごせない。MADのハルピンのオペラハウスはザハの流線型を超えるような勢いでうねっている。又、モンゴルのオールドスミュージアムやハルピンの木造彫刻美術館をはじめ、その形はザハ以上とも思える。このMADの北京の事務所も2回程淵上さんと訪れたが、北京の裏町の少し混沌とした場末のオフィスはそれこそMADらしい場所であった。ザハらの曲線を使ったこの建築の流れは、後世に評価することであるが、近代から現代建築の歴史の流れを一つ変えたように思えてならない。

最後に、定員にはあと一步であるのでNSK会員の一層の参加を来年は期待したい。



【写真】1,2…会場風景、3,4…二次会風景



